解説

附属高等学校 1 年地理総合

指導案タイトル：ハザードマップ：地図と GIS の活用①

授業者：沼畑早苗 教諭

解説タイトル：ハザードマップ活用による

防災意識向上とエージェンシー

コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授

下島泰子

本授業は、地図を活用し社会や世界との「よりよいつながり」を意識させるというものであり、「社会をよりよく変革する」主体性に近い概念のエージェンシーと関わるものである。SDGs の目標 11「都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする」及び目標 13「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」に該当する。

国土地理院の HP によると、地理情報システム（GIS : Geographic Information System）は、「地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術」である。地図を課題解決に活用する単元として、明治および昭和の三陸地震、東北地方太平洋沖地震（2011 年）の岩手県釜石市を事例とし、自然災害を最小限に食い止めるには地図をどのように活用するかを検討している。

防災に関連する課題は、ハザードマップのそれぞれの情報の読み解きが必要である。地図上には人が多く居住する地域、防波堤や堤防の場所、浸水予想などがある。ハザードマップに示された危険な箇所と実際の被害とを比較し、被害状況が異なることを確認することによって「批判的思考力の育成」が見込まれる。被災者への配慮を考えることで「他者理解力」にもつながる。ハザードマップが実際の被害と異なることを踏まえてハザードマップ使用上の留意点や防災上の課題を考えることで震災を「自分事」にし、防災意識が向上する。